

Hitachi Koki

日立ねじ打機

木下地用

鋼製下地用

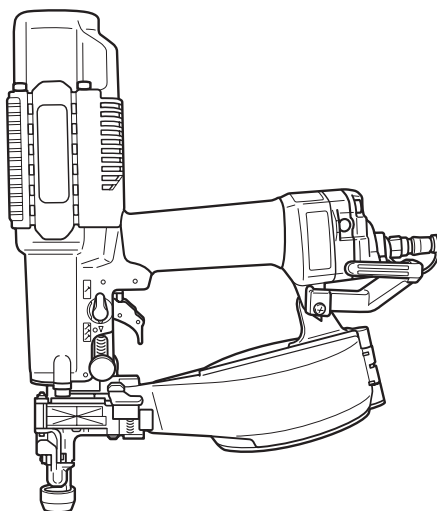
4 mm WF 4AR

取扱説明書

このたびは日立ねじ打機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



HITACHI

目 次

ページ

ねじ打機の安全上のご注意	2
各 部 の 名 称	9
仕 様	9
ねじの選び方	10
標 準 付 属 品	12
別 売 部 品	12
用 途	12
作業前の準備	12
ご 使 用 前 に	13
使 い 方	16
ビットの交換のしかた	24
保 守 ・ 点 検	27
エアコンプレッサと作業の速さ	30
オイラー・フィルタ・減圧弁	30
使 用 潤 滑 油	31
ご修理のときは	32
全国営業拠点	裏表紙

警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」、「 注意」、「 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

ねじ打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

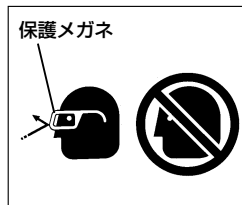
⚠ 警 告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
ねじを連結しているプラスチックの破片や打ち損じのねじが目にあたると、けがの原因になります。

①



② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

ねじ打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

②



③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。

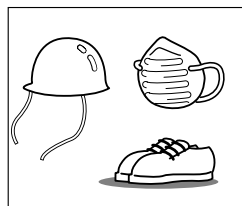
⑤ きちんとした服装で作業してください。

⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

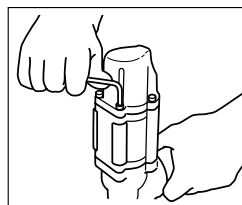
- ねじ類の締付けがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

④



⑥

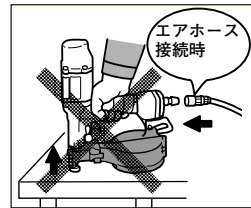


⚠ 警 告

⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
 - プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。
- 誤ってねじが発射した場合、けがの原因になります。

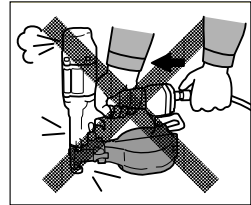
⑦



⑧ ねじを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - 空気漏れや異常音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑧

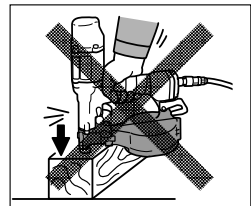
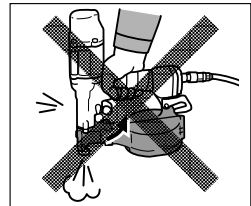


⑨ 使用前に安全装置の確認をしてください。

この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、ねじが発射されない構造になっています。ねじを装てんする前に、エアホースを接続し、次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨



⑩ 指定のビットを使用してください。

指定されたビット以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑪ ビットは取扱説明書に従って確実に取付けてください。

確実にしないと、はずれたりして、けがの原因になります。

⚠ 警 告

⑫ 用途に合った作業に使用してください。

- この機体は、石こうボードを鋼製下地または木下地にねじ止めする作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑬ 指定のねじを使用してください。

指定されたねじ以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑭ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、ねじ打機やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

⑮ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑯ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業前

① 指定の空気圧力で使用してください。

- この機体の使用空気圧力範囲は $0.59 \sim 0.78 \text{ MPa}$ { $6 \sim 8 \text{ kgf/cm}^2$ } です。
この範囲内で使用してください。
 0.78 MPa { 8 kgf/cm^2 } を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

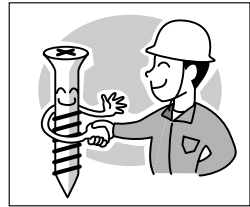
② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤ってねじが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

⑬

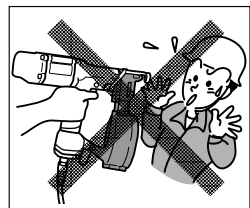


①

$0.59 \sim 0.78 \text{ MPa}$
{ $6 \sim 8 \text{ kgf/cm}^2$ }



②



③

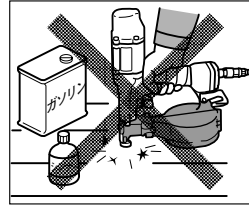


⚠ 警 告

④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、ねじ打機やエアコンプレッサを使用しないでください。
- ねじを打ち込むときの火花による引火や、空気と一緒に吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

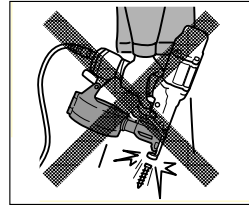
④



⑤ ねじを打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
 - ねじを装てんするときや調整などをするときは、引金に指をかけないでください。
- 誤ってねじが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

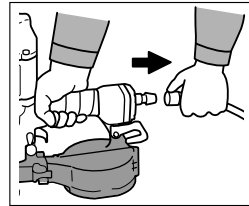
⑤



⑥ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
 - 点検・修理・調整、ねじまりの直しなどの場合。
 - ねじを装てんする場合。
 - ビットを交換する場合。
 - ねじ打機を移動する際や手渡しする場合。
- 誤ってねじが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



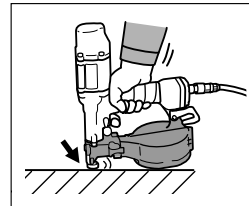
⑦ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってねじが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑧ ねじを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったねじの上に、再度ねじを打つことはしないでください。
- ねじがはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑧



⑨ ねじガイドは完全に閉じ、使用中は開けないでください。

ねじガイドを開けた状態で作業すると、ねじがそれて発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩ 作業中はまわりの人に注意してください。

ねじを連結しているプラスチックの破片や打ち損じたねじが当たる恐れがあり、けがの原因になります。

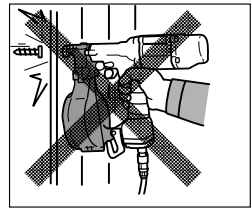
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。

機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

⑪ 薄い板や木材の端にねじを打たないでください。

薄い板に打つとねじが突き抜けたり、木材の角に打つとねじがそれたりして、けがの原因になります。

⑪



⑫ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑬ 使用中は、振り回されないよう機体を確実に保持してください。

確実に保持していないと、けがの原因になります。

⑭

⑭ 壁の両側から同時にねじ打ち作業をしないでください。

打ったねじが突き抜けたり、壁ぎわのねじがそれたりして、けがの原因になります。



⑮ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、ねじ打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

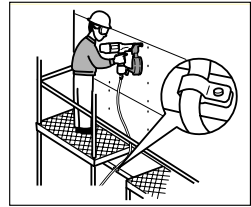
けがの原因になります。

⚠ 警 告

⑩ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面でねじを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面でねじを打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面にねじを打つときは、上から下へ作業してください。

⑩



⑪ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- ねじ打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑫ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

⑬ フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤ってねじが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

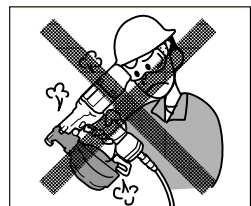
⑭ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

⑮ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用すると、けがの原因になります。

⑮





警 告

作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、ねじを全部抜き取ってください。

ねじを残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

- ② ねじ打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

- ③ ねじ打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくため、ねじ打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

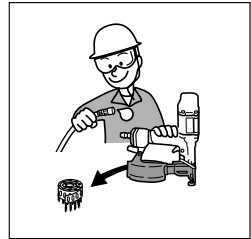
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。
安全性が損なわれ、けがの原因になります。

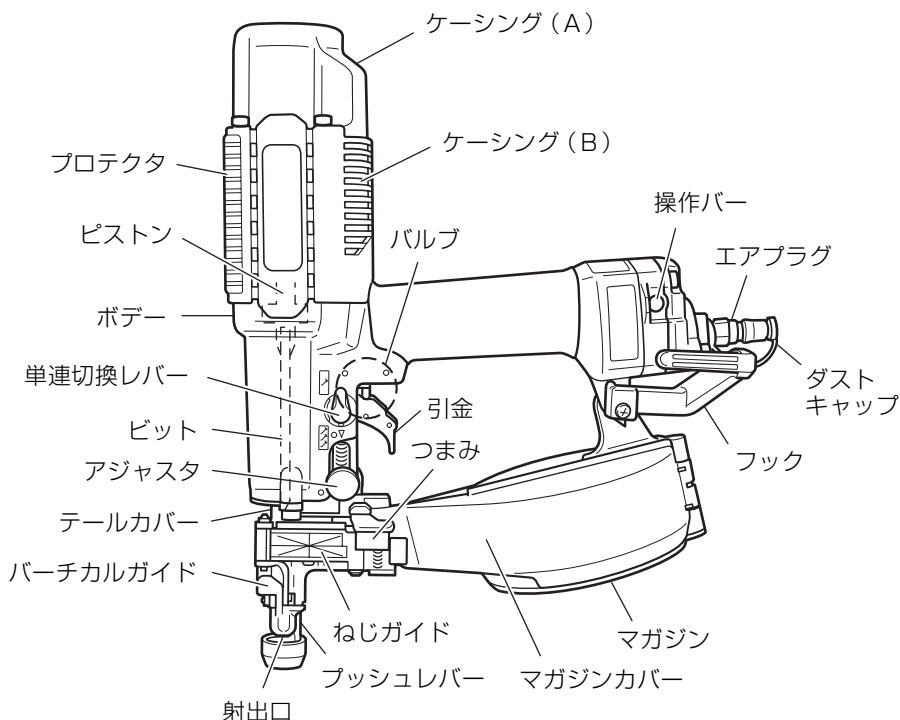
- ⑥ ねじ打機の修理は、専門店に依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

①



各部の名称



仕様

動力形式	エアモーター回転 + ピストン往復動式
使用空気圧力	0.59～0.78 MPa {6～8 kgf/cm ² }
能力(使用ねじ)	ロール連結ねじ: 25～41 mm
ねじの装てん数	100本(1巻)
製品の大きさ	長さ290 mm×高さ326 mm×幅119 mm
製品質量	1.8 kg
ねじ送り方式	ピストン往復動式
使用エアホース(内径)	8.5 mm 以上

ねじの選び方

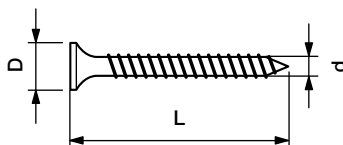
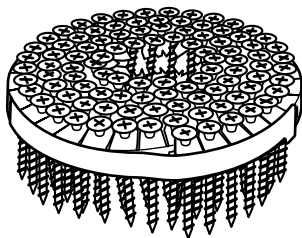
この機体は、下左図に示すロール連結ねじが使用できます。また、形状は下右図に示すねじを準備してあります。

ねじ締め作業の用途に合わせて適切なねじをお選びください。

ねじはねじ打機をお買い上げの販売店で求めください。

連結ねじ

1 巻：100 本



ねじの寸法・形状

用途	長さ L(mm)	頭径 D(mm)	軸径 d(mm)	表面処理	形 名	備 考
鋼製下地の締結	25	8.0	3.5	合金メッキ	SV 3525 K	鋼製下地 (厚さ 0.8 mm 以下)
	28				SV 3528 K	
	41			ディスゴ	SV 3541 K 2	
石こうボードと木下地の締結	25	8.0	3.9	合金メッキ	SV 3925 H	
	28				SV 3928 H	2 × 4 認定
	32				SV 3932 H	2 × 4 認定
	41				SV 3941 H	
	25	8.0	3.9	ラスパート	SV 3925 HR	
	28				SV 3928 HR	2 × 4 認定
	32				SV 3932 HR	2 × 4 認定
	41				SV 3941 HR	
	25	8.0	3.9	ステンレス	SV 3925 HS	
	28				SV 3928 HS	
	32				SV 3932 HS	
	41				SV 3941 HS	
合板と下地の締結	28	7.0	3.7	ラスパート	SV 3728 WF	合板用 フレキねじ
	32				SV 3732 WF	
	41				SV 3741 WF	

注 • 鋼製下地の場合は、前ページの表の日立純正鋼製下地用ねじを使用してください。

それ以外のねじを使用すると打ち込めない場合があります。

• 異常締付け（カムアウト・浮き）、故障（ねじづまり・ビットの摩耗）の原因になるので、指定外のねじは使用しないでください。

*カムアウト：ねじの十字穴よりビットがはずれて空回りし、うまくねじ締めができない状態。



注 意

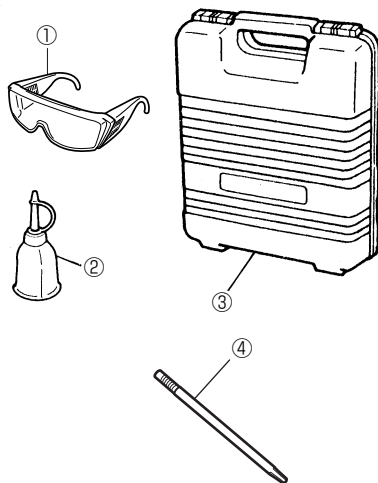
• 使用ねじは、必ず下記の部材適合表に合ったねじを使用してください。
不適切なねじを使用すると機体の十分な性能が得られません。

形 名	適合下地	石膏ボードの厚さ (mm)				
		t9.5	t12.5	t15	t 9.5 + t 9.5 (二重張り)	t 12.5 + t 12.5 (二重張り)
SV 3525 K	鋼製下地 (厚さ 0.8 mm 以下)	○	○	×	×	×
SV 3528 K		○	○	○	×	×
SV 3541 K 2		×	×	×	○	○
SV 3925 H SV 3925 HR SV 3925 HS	木下地	○	×	×	×	×
SV 3928 H SV 3928 HR SV 3928 HS		○	○	×	×	×
SV 3932 H SV 3932 HR SV 3932 HS		×	○	○	○	×
SV 3941 H SV 3941 HR SV 3941 HS		×	×	×	○	○

注 • この機体で使える鋼製下地の厚さは 0.8 mm 以下です。

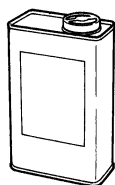
それ以上のもの、また、2 枚重なった箇所へ使用した場合は、打ち込めないことがあります。

標準付属品



- ① 保護メガネ…………… 1 個
- ② 油さし…………… 1 個
- ③ ケース…………… 1 個
- ④ ビット (No. 2 プラスビット) …… 1 個
- ⑤ ビット交換工具…………… 1 個

別売部品



- 釘打機・タッカ用オイル

用 途

- 建築内装の鋼製下地材 (厚さ 0.8 mm 以下) への石こうボード張り作業
- 建築内装の木下地材への石こうボード張り作業
- 木下地材への合板の締付け作業

作業前の準備

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に次の準備をすませてください。

1. エアホースの準備

この機体に使用できるエアホースの内径は 8.5 mm 以上、長さは 30 m 以内のもので、エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 ・エアホースの内径が小さかったり、長さが長かったりすると圧力が低下して、カムアウト、ねじ浮き、ねじ送り不良などが生じます。

2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する

水や油が内部にたまると、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆめめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

3. ねじの準備

ねじ締め作業の用途に合ったねじを準備してください。

（10、11 ページ参照）

4. 安全点検

 警 告
・子供など作業員以外は近づけないでください。 ・ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。 ・損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

27 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に

 警 告
・可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

1. 空気圧力の確認

 警 告
・この機体の使用空気圧力の範囲は 0.59 ～ 0.78 MPa { 6 ～ 8 kgf/cm² } です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、ねじ締め能力（ねじの長さ、石こうボードの厚さ、部材の堅さなど）に合わせて、0.59 ～ 0.78 MPa { 6 ～ 8 kgf/cm² } の範囲で調整して使用してください。空気圧力が 0.59 MPa { 6 kgf/cm² } 未満または 0.78 MPa { 8 kgf/cm² } を超えると機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

2. 給油について

- 必ず1日に2回以上、作業の前後に10～15滴の油をエアプラグから入れてください。作業前の油は潤滑油になり、作業後の油はさび止めになります。

注 • 作業前の場合、給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口と射出口より噴霧状に飛び散るので、油がかかっても支障のない所で2～3本ねじを打って、それから作業してください。

• 作業後の場合、注油後1本だけねじを打つと油が内部に行き渡ります。

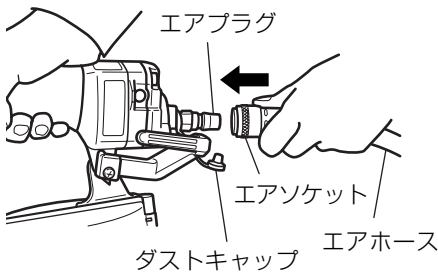
- エアコンプレッサと機体との間にエアーセット(30ページ参照)を取付けることをおすすめします。エアーセットからの給油は各部の動作が円滑になるとともに機体の寿命も長くなり、またさびの防止にもなります。オイラーの油滴下量は5～10回打ち込み毎に1滴の割合で調整してください。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、市販で利用できる油を31ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

3. エアホースを接続する

⚠ 警 告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。



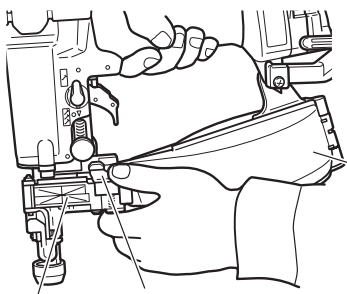
- エアプラグからダストキャップをはずします。
- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

4. ねじを入れる



警告

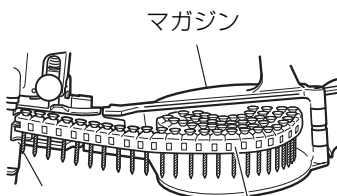
- ねじを装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。



マガジン
カバー

ねじガイド つまみ

- ねじガイドとつまみに指をかけ、つまみを下へ押してそのまま左へ開きます。
- 次にマガジンカバーを右に開きます。

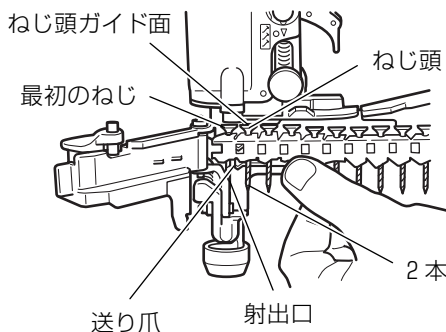


マガジン

ねじの巻始め部

ねじ

- ねじをマガジン内に入れます。
- マガジンから、ねじの巻始め部を引き出します。



ねじ頭ガイド面

最初のねじ

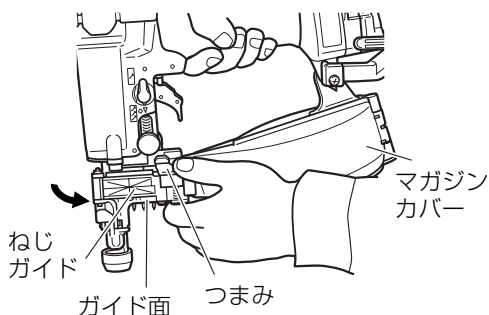
ねじ頭

2 本目のねじ

送り爪

射出口

- ねじ列のねじ頭がねじ頭ガイド面の真下にくるようにし、送り爪が最初のねじと2本目のねじの間にくるようにして、最初のねじを射出口の中に入れます。



- マガジンカバーを閉じます。
- ねじガイドとつまみに指をかけ、つまみを下に押し、連結シートをガイド面側に押しつけながら、ねじガイドを完全に閉じます。

以上で、ねじの装てんが完了します。

注

次のような場合には、ねじガイドがうまく閉じないことや、ねじが正常に送られないときがあるので、注意してください。

- ・ねじや連結シートが所定の位置に入っていない場合。
- ・ねじがガイド面から浮き上がっている場合。
- ・ねじが連結シートからはずれている場合。

使 い 方



警 告

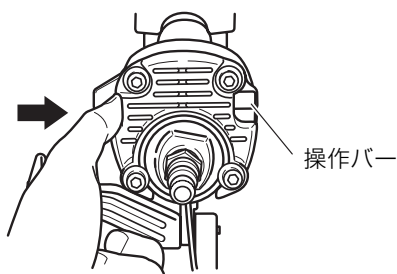
- ・作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- ・作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- ・人体に射出口を向けないでください。
- ・射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- ・一度打ったねじの上に、再度ねじを打つことはしないでください。
- ・フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

1. モード切り替えについて

この機体は、相手材の条件に応じて出力を2段階に変えられる「一般・強モード」切り替え機構が付いています。

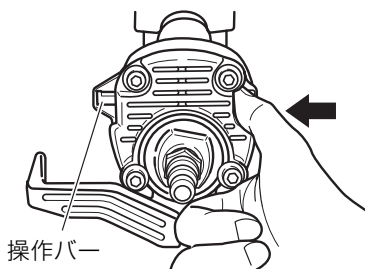
「一般モード」は反動が少なく仕上りを重視したモードであり、「強モード」はパワフルなねじ締めができるモードです。

〈一般モード位置〉



- 操作バーを右側へいっぱい押し込みます。

〈強モード位置〉



- 操作バーを左側へいっぱい押し込みます。

注

- エアホースをはずしてからモード切り替えをしてください。
- 定期的に操作バーの周辺を掃除し、注油してください。
- 操作バーの切り替え時、最初の動きがしぶい場合があるが、これは故障ではありません。

下表により、適正なモード位置にしてください。

用 途		一般モード	強モード
石こうボード + 木下地 合板 + 木下地		○ 使用可	○ 使用可
鋼製下地	0.4 mm 厚	○ 使用可	× 使用不可
	0.6 mm 厚	○ 使用可	○ 使用可
	0.8 mm 厚	× 使用不可	○ 使用可

注

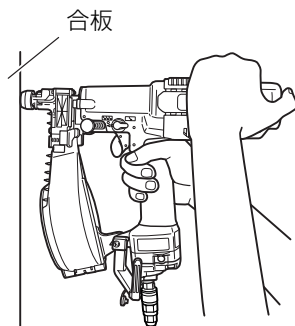
- 0.4 mm厚の鋼製下地へは「強モード」では使用できません。必ず「一般モード」で使用してください。

ねじが貫通し過ぎてねじ締めできない場合やねじが効かない場合があります。

- 鋼製下地打ちでは、できるだけ「一般モード」で使用し、貫通不足でねじが入らない場合に「強モード」で使用することをおすすめします。
- 「一般モード」では、機体内部の圧力はエアコンプレッサ側の圧力と無関係に常に一定です。したがって、エアコンプレッサ側の圧力を上げても機体内の圧力は変わりません。
「一般モード」で使用中に、相手材が硬いなどでねじが締まらない場合は「強モード」に切り替えて使用してください。

- 「強モード」で合板にねじ締めする場合は、ねじ締め時に機体が振れないように両手でしっかりと機体を支持し、使用してください。

機体が振れるとカムアウトが発生しやすくなり、ねじが締まらない場合があります。



- 作業開始時、最初の1発目に機体の起動が悪い場合があります。この場合は、操作バーを一旦「強モード」に切り替えてから空気圧を上げて2～3回動作させた後、通常の空気圧力、モードに戻し、使用してください。
- 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなる場合があります。

2. ねじの打ち方

この機体は、先にプッシュレバーを対象物に押し当ててから引金を引く単発打ちと、先に引金を引いておいてからプッシュレバーを押し当てる連続打ちの両方の打ち方ができます。

注

・釘打機とは異なり、ねじ締めには十分な押し付け力が必要です。

押し付け力が不足すると、ねじ浮きが生じます。

ねじが完全に締め込まれてモーターの回転が止まるまで、しっかり機体を押し付けて使用してください。

・しっかり確実に押し付けて打つために、単発打ちでの使用をおすすめします。

・必ず射出口の先端を対象物に直角に押し当てて打ってください。

・この機体の使用エアホース内径は 8.5 mm 以上、長さは 30 m 以内のものを使用してください。

エアホースの内径が小さかったり、長さが長かったりすると圧力降下をして十分な性能が得られません。

(1) 単発打ち

単連切換レバーを上向きの単発位置にセットしてください。(下左図)

単発打ちは、仕上げを重視する場合や狙った所にねじを打つ場合に使用します。

〈打ち方の手順〉(下右図)

① 対象物にプッシュレバーの先端を押し当てる。

② 機体をしっかり押し付けながら引金を引く。

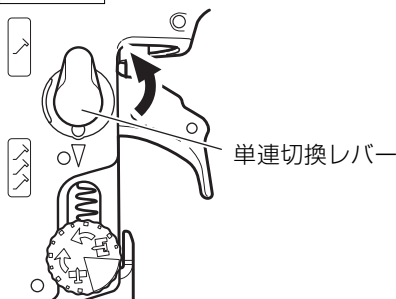
③ ねじが完全に締め込まれてモーターの回転が止まったら、機体を持ち上げてから引金をはなす。

注

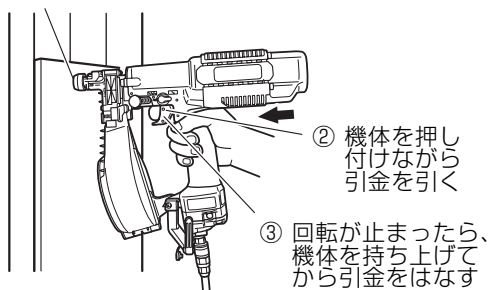
・ねじが完全に締め込まれてモーターの回転が止まるまで、引金をはなさないでください。

引金を早くはなすと、ねじ浮きやねじ送り不良が生じます。

単発位置



① 先にプッシュレバーを押し当てる



(2) 連続打ち

単連切換レバーを下向きの連続位置にセットしてください。(下左図)

連続打ちは、引金を引いたまま連続的に作業をする場合に使用します。

〈打ち方の手順〉(下右図)

- ① 引金を引いておく。
- ② ねじが完全に締め込まれてモーターの回転が止まるまで対象物に射出口をしっかりと押し付ける。

注 ・ねじが完全に締め込まれてモーターの回転が止まるまで機体を十分な力で押し付けながら打ってください。特に「強モード」で使用する場合は、反動が大きいため、注意してください。

締め込み途中で力を抜くと、機体が反動で浮き上がり、2～3回打ち込み動作をすることがあります。

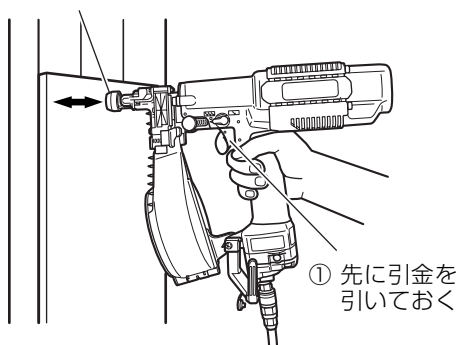
- ・しっかり確実に押し付けて打つために、できるかぎり単発打ちで使用してください。

連続打ちで使用すると、ねじ浮きが起こりやすくなります。

連続位置



- ② モーターの回転が止まるまで射出口を押し付ける



○ 安全装置について

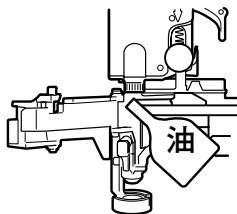
この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、ねじが発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーをねじ止め対象物に押し当てただけでは、ねじは発射しません。これは、ねじを打つとき以外に誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、ねじが発射されることを防ぐためです。

注

• 空打ちの注意

連続してねじを打っていると、ねじがなくなったことに気がつかず、そのまま使用している場合があります。これを「空打ち」といい、空打ちを続けると各部に影響を与えるので、空打ちをしないよう注意してください。

- ねじ締め中、ビットがねじに食い付いて離れにくいときは、ビットの先端に付属の油を1～2滴注油してください。



(3) 作業中断時、使用後のご注意

**警 告**

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、ねじを全部抜き取ってください。

注

- 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。

3. 打ち込み深さの調整

**警 告**

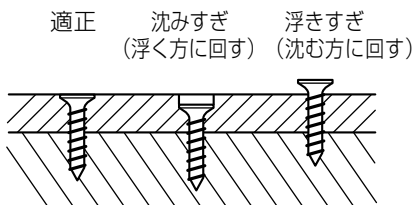
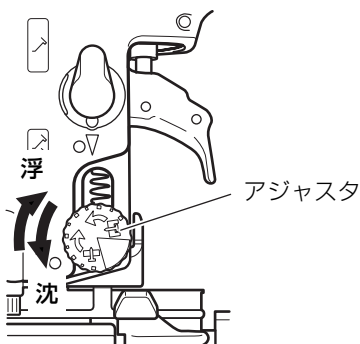
- 打ち込み深さは、アジャスタによって調整します。アジャスタを調整するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。
- アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認してください。

(1) アジャスタの調整（次ページの図参照）

- 試し打ちして、ねじが沈みすぎるときはアジャスタを浮く方（マーク ）に回します。

ねじの頭が浮くときはアジャスタを沈む方（マーク ）に回します。

アジャスタは1回カチッと回るとに0.5mm移動します。



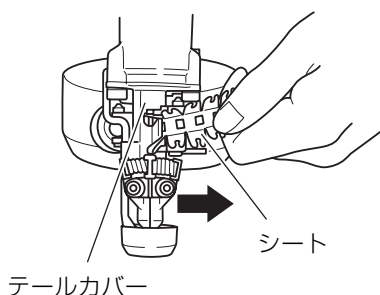
(2) 空気圧力、アジャスタ調整の目安

注 ・打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できるのでアジャスタの調整と併用してください。

ねじの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

- アジャスタを最も沈む方向に回します。
- 目安として、使用空気圧力を 0.59 MPa { 6 kgf/cm^2 } にセットします。
- 試し打ちして、ねじが沈みすぎる場合は、アジャスタを浮く方に調整します。
- ねじの頭が浮く場合は、空気圧力を高い方に調整します。

4. 連結シートの切り方



警 告

・連結シートを切るときは、必ず引金から指をはなしてください。

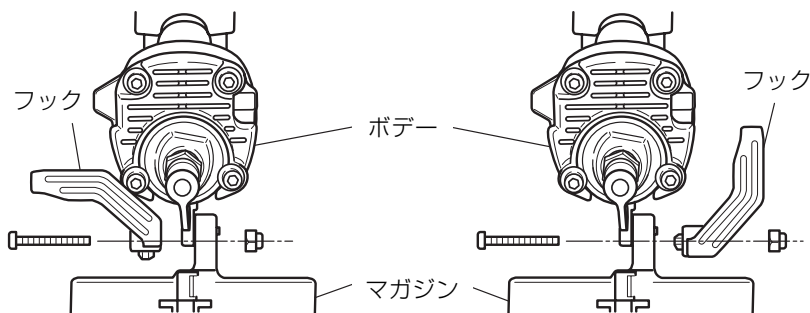
ねじを打っていますと、テールカバーよりロール連結ねじのシートが出てきます。出てきたシートは矢印の方向に引きちぎってください。

5. フックの向きの変え方

⚠ 警 告

- フックの向きを変えるときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

フックは2方向に向きを変えることができます。向きを変えるときは、⊕ドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。



6. ねじの取扱い方

注

- ねじの梱包箱、ねじ単体いずれの場合もていねいに扱ってください。落とすと、連結シートからねじがはずれます。また、そのままの状態で使用するとねじ送り不良により、空打ち、ねじづまりなどが発生するため、使用しないでください。
- ねじは長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結シートに不具合が生じる場合があるので、使用しないときはねじ梱包箱などに入れてください。

ビットの交換のしかた



警告

- ビットを交換するときは、必ずエアホースをはずし、ねじを全部抜き取ってください。



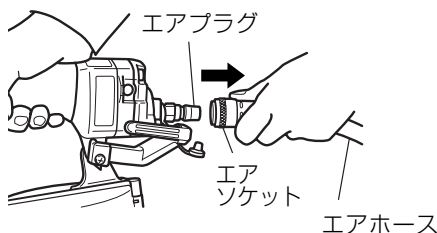
注意

- ビットの交換時、機体内部に砂、ごみ、ほこりなどが入らないようにしてください。
故障の原因になります。
- ビットは消耗品です。摩耗したビットをそのまま使うと、ビットが十字部や機体内部で破損したとき、交換ができなくなる場合があります。同時に、作業能率を損ない、ねじ締め不良の原因にもなります。消耗したビットは、早めに新品と交換してください。

ねじ締め作業中、カムアウト（ねじの十字穴からビットがはずれて空回りし、ねじ締めができない状態）が多く出るようでしたら、ビットの交換時期です。早めに新品と交換してください。

付属のビット交換工具を使って、次の手順にしたがってビットを交換してください。

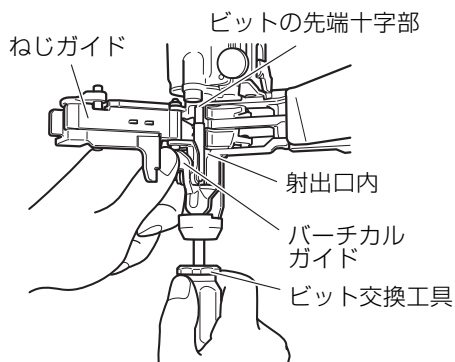
〈ビットの取り出し方〉



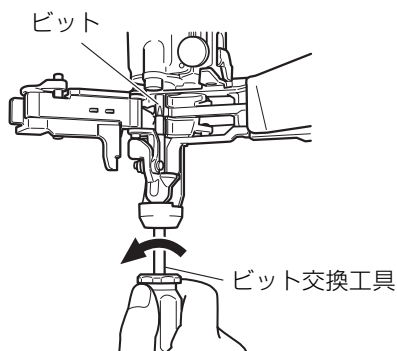
- エアホースをはずします。



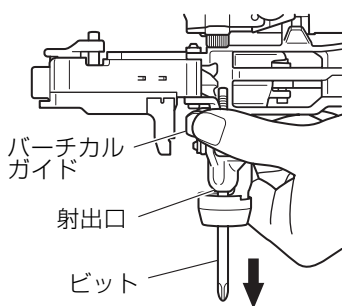
- エアホースをはずしないとビットを交換できません。



- ねじガイドを開きます。
バーチカルガイドを開いて、ビット交換工具の先端を射出口内に入れ、ビットの先端十字部にかみ合わせます。

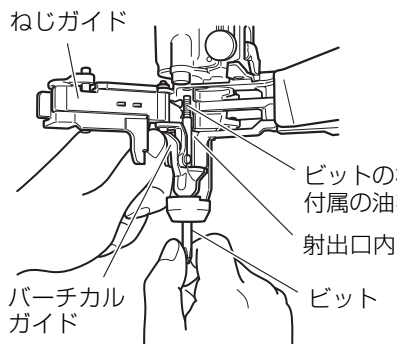


- ビット交換工具を押し付けながら左方向に約10回転以上回すと、ビットが機体内部からはずれます。

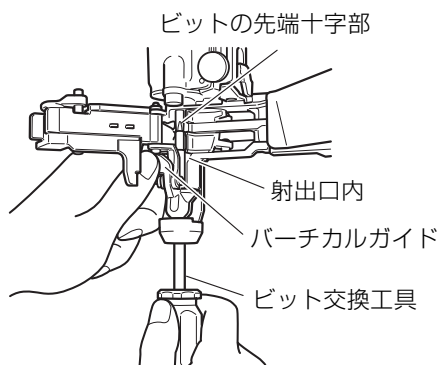


- ビット交換工具を抜き出し、射出口を下にして、バーチカルガイドを開くとビットが取り出せます。

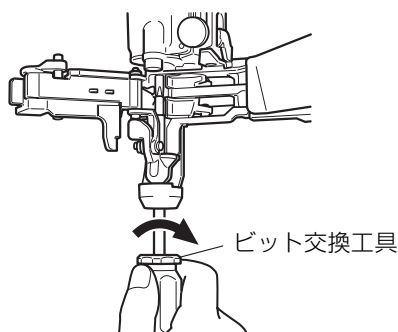
〈ビットの取付け方〉



- ねじガイドを開きます。
ビットのねじ部に付属の油を少量塗布し、バーチカルガイドを開いて、射出口内にビットを入れます。



- バーチカルガイドを開いて、ビット交換工具の先端を射出口内に入れ、ビットの先端十字部にかみ合わせます。



- ビット交換工具を押し付けながら右方向に回転させて締付けます。
(あまり強い力で締付ける必要はありません。)

注 ・ビットのねじ部がさび付いて、次に交換するときに機体からはずしにくくなる場合があります。ビットを交換するときは、必ずねじ部に付属の油を塗布してから交換してください。

保守・点検

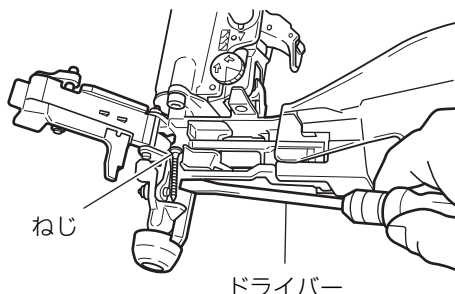


警告

- ねじづまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、ねじを全部抜き取ってください。

1. ねじづまりの直し方

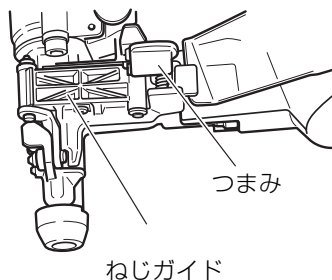
- ねじをマガジン内より抜き取り、ねじガイドを開き、射出口から細い棒を入れハンマでたたきます。
- 内部につまったねじを⊖ドライバーなどで取り除きます。
- 連結シートの変形した部分をニッパなどで切断し、再び、ねじをセットします。



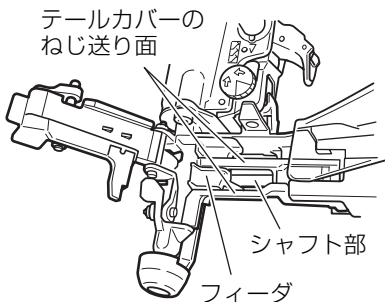
2. プッシュレバーの点検

プッシュレバー(9ページ参照)がスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより、動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

3. ねじ送り部の点検



- つまみの摺動部はときどき掃除し、付属の油を注油してください。



- ねじガイドを開いて、付着している石こうボード粉やごみを掃除し、特にフィーダの摺動する溝とシャフト部には、付属の油を注油してください。
- テールカバーのねじ送り面も掃除後、付属の油をうすく塗ってください。
油を塗ることにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

4. 各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。
ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

5. ごみ・ほこりの防止

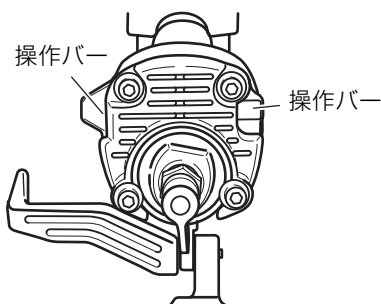
使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

6. マガジンの点検

マガジンをときどき掃除してください。

中にたまった石こうボード粉やごみなどを取り除いてください。

7. 操作バー部の点検



- 定期的に、操作バーの周辺に付着した石こうボード粉やごみなどを掃除し、付属の油を注油してください。

8. 作業後の保管

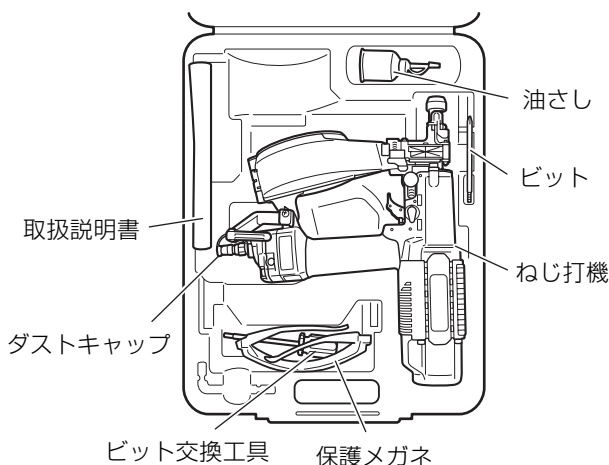


警 告

- 作業後は、ねじを全部抜き取ってください。

注

- エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。
- 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。機体と付属品は下図のようにケースに入れてください。
- 長期間使用しない場合は
 - さび防止のため、エアホース取付口から給油し、2、3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用ねじの長さ和使用空気圧力（MPa）の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

また、下表は鋼製下地材の厚さ、木材の硬さによっても異なりますので、一応の目安としてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

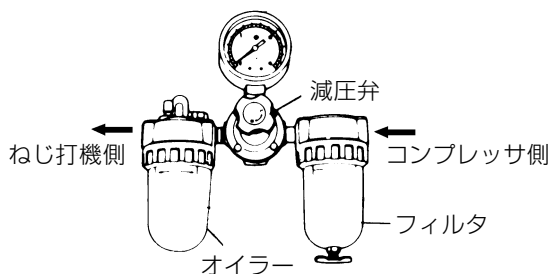
使用空気圧力 使用ねじ エアコンプレッサ	0.59～0.78 MPa {6～8 kgf/cm ² }			
	25 mm	28 mm	32 mm	41 mm
EC 6 SA 1 EC 713	45～35 本	40～35 本	40～30 本	30～25 本
EC 813	55～45 本	50～40 本	45～40 本	35～30 本
EC 922	60～50 本	55～45 本	55～40 本	40～35 本
EC 1430 H	90～75 本	75～65 本	75～60 本	60～55 本

たとえば、0.64 MPa {6.5 kgf/cm²} の圧力で 28 mm のねじを 1 分間に 50 本の速さで打ち込む場合は、上の表から EC 922 のエアコンプレッサが必要となることがわかります。

オイラー・フィルタ・減圧弁 ……（エアーセット）

工具を最適の条件でお使いいただき、工具を長持ちさせるためオイラー・フィルタ・減圧弁をご使用されるようおすすめします。これらは単体またはセットで市販されております。

（日立釘打機用ハンディコンプレッサ EC 6SA1 には取付きません。）



オイラー…… 清浄で適量の潤滑油を自動的に供給できます。油は、日立釘打機・タッカ用オイルのご使用を推奨いたします。その他使用可能な油は次項に示します。5～10本打つ間に1滴落ちる程度に調整してください。

フィルタ…… 圧縮空気中の水分、ごみなどを取り除きます。

減 圧 弁…… エアコンプレッサの圧縮空気を必要な一定圧力に調整して使用できます。

使用潤滑油

使用潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油 の 種 類		銘 柄 お よ び 品 名
日立釘打機・タッカ用オイル		———〔別途販売しております〕
その他の オイル 〔市販品〕	ベ ビ コ ン 油	日立ベビコン用オイル
	エ ン ジ ン オ イ ル	エンジンオイル各銘柄 SAE 10W, SAE 20W
	タ ー ビ ン 油	タービン油各銘柄 ISO VG 32～68 (# 90～# 180)

注 ・潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ

モ

メ

モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

●全国営業拠点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル） ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル） ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル） ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル） ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 ― お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター フリーダイヤル 0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00）

電動工具ホームページ ― <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>

